



FÛ

EN

# 楓園

## CONTENTS

- |                              |                    |
|------------------------------|--------------------|
| 1 — 特集 野尻キャンプサイト [中高部担当]     | 11 — 行事報告 3月～5月    |
| 6 — この人に聞く 笹尾典代              | 12 — 聖書の言葉・英和探訪    |
| 7 — 東洋英和幼稚園 NEWS・かえて幼稚園 NEWS | 13 — 学院 NEWS       |
| 8 — 小学部 NEWS                 | 15 — 英和の植物通信・同窓会より |
| 9 — 大学 NEWS                  | 後援会より・お知らせ         |



### ■ キャンプサイトから野尻湖を望む

夏の到来と共に野尻キャンプサイトでの生活が始まります。光に満ちた穏やかな湖水をたたえる野尻湖にたどり着いた瞬間に、都会での生活とは違った時間が流れ始めます。英和生が愛してやまない、今も昔も変わらぬ野尻の魅力です。

# 野尻キャンプサイト

いよいよ三期にわたった改築工事を終え、野尻キャンプサイトが新しく生まれ変わりました。様々な野尻の魅力をご紹介します。

光の子として歩みなさい。

エフェソの信徒への手紙 五章八節

## キャンプサイト改築工事が完了して

理事長・院長 池田 守男

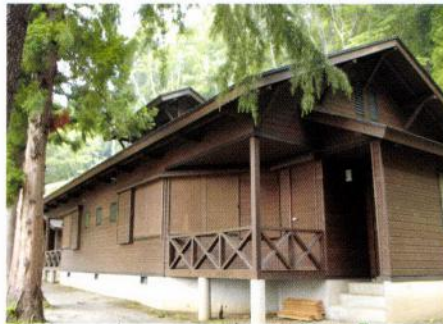
さる七月五日、野尻キャンプサイト改築竣工感謝礼拝に参加し、新しい時代に向かって、新しい英和の歴史が刻まれたことを実感し、感無量でした。多くの方々のお力添え、思いが野尻の地に集約され、素晴らしい形となって結実いたしました。ここに深く感謝申し上げます。

野尻の湖畔で、英国の詩人ブラウニングの「春の朝」という詩の一節が思い起こされました。「神、そらに知ろしめす—God's in His heaven」。野尻は七〇年もの間、多くの英和生が自然を通じて神と出会い、先生や友人と多くのことを学び、時間軸を超えて共通の思いを持ち続けた場です。

神とのつながりにおける自然との関わりをもてる場である野尻を、学院としてこれからも大切に守って参ります。



野尻湖畔での池田守男理事長・院長



- 第Ⅰ期工事
- 第Ⅱ期工事
- 第Ⅲ期工事

**野尻キャンプサイト概要**  
 位置：長野県上水内郡信濃町桐久保  
 敷地：27,157㎡  
 収容人数：約140人  
 建物：キャビン5棟、長野彌記念ホール（メインホール）、英和ハウス（管理棟）・寺ヶ崎ハウス（宿泊棟）、浴室棟、艇庫

**野尻湖概要**  
 海拔：654m 面積：4.56km<sup>2</sup>  
 周囲：16km 最深点：38.5m  
 成因：斑尾山及び黒姫山の噴火による堰止湖  
 北信五山といわれる飯綱、戸隠、妙高、黒姫、斑尾の独立名峰に囲まれている。多くの岬があり湖の形が芙蓉の花に似ているので芙蓉湖とも呼ばれている。



英和ハウスと寺ヶ崎ハウスの間に2本のシュガーメープルが植えられています。英和の校章はこの楓の葉がデザインされたものです。樹液を煮つめるとメープルシロップが採れます。ET会（中高部の旧教職員の会）より寄贈があり、すくすくと野尻の地で育っています。



大事に育てていきます

野尻湖キャンプサイトの生い立ち

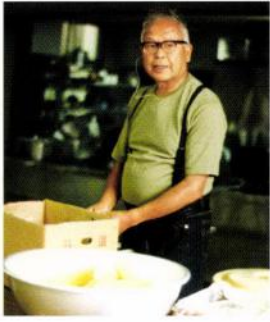
中学部部长 鈴木 齊

長野先生とハミルトン先生を魅了した野尻

野尻キャンプサイトは、元院長の長野彌先生（一九三三年〜七二年在職）の青少年の心身の健全な成長に野外教育は欠かせない、という当時の日本ではパイオニア的教育観と、英和の生徒のためのキャンプサイトを自然が豊かな野尻湖畔に造りたいとの熱意によって誕生しました。

『野尻野外教育施設の由来』（敬和会一九七五年刊行）と『東洋英和女学院百年史』に、誕生の経緯をたずねてみます。

野尻のキッチンに立つ長野彌先生



ようです。それは昭和一九〇年頃の事だと思えます。その後ハミルトン先生は何とかして独自の

キャンプサイトを持ちたいと願うようになります。すると、在校生の母親が野尻近くの古間村の村長さんの娘であることが分かり、その方々の働きで、野尻湖畔宮沢（隣接のY.M.C.A.を挟んで現在の英和のキャンプサイトの反対側）に二千坪の土地の購入が実現できたのです。それは一九三六年一二月の暮れも押し寄せた頃のことでした。キャンプサイト開設はそれより二年後の一九三八年となります。一九四〇年まで小学科と女学科が夏期学校を開催しています。

苦難の時代を越えて再び野尻へ

しかし時局がら、一九四一年東京府より団体旅行禁止の通達があり、夏期学校が中止となりました。そのうえ戦時下の学校財政の危機を切り抜けるために宮沢の地を手放すという苦渋の決断をしなければなりません。ゆえに野尻キャンプサイト再建は長野先生の悲願となりました。戦中に荒れ果てたY.M.C.A.の野尻学荘を復興し、荘長として指導された長野先生を篤く敬愛する、学荘OB達の全面的な協力により、一九六八年に寺ヶ崎と呼ばれる現在地を購入。二年後には、この地に東洋英和女学院野尻キャンプサイトが蘇ったのでした。それは宮沢の地を手放して二八年後、長野彌先生が高等部部长・院長を退任される二年前のことでした。建築資金には母の会の協力に負うところが大きく、楓祭などでバザーを催し、収益金がささげられています。

キャンプサイトでは、中二夏期学校、野尻キャンプ、訓練キャンプ、修養会とさまざまな活動が行われ、野尻湖の自然を愛し、野尻の生活を楽しみ、仕え合う共同生活を喜び、神への感謝の思いを深める英和生を育む場となっています。

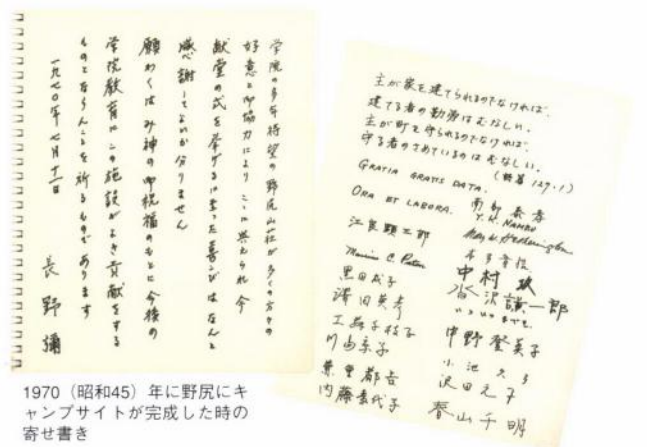
一九八三年二月にご逝去された長野彌先生を偲び、功績を称えて、メインホールは「長野彌記念ホール」と命名されました。

次の世代にも野尻の素晴らしさを

キャンプサイトは四半世紀が過ぎ老朽化が目立つようになり、Ⅲ期に分けた改築計画が立てられます。一九九五年にⅠ期工事として一棟二キャビンの宿泊棟が五棟竣工しました。

各キャビンにはテラスと高い吹き抜けのロビーに天窗があり、野尻の風を呼び込める工夫がなされています。一二床の二段ベットと、水洗トイレを備えた明るい洗面所を配備し快適なキャビン生活ができる様になりました。

その後キャンプサイトの改築工事はしばらく中断されておりました。その間は開寮キャンプの際、幼稚園から大学までの保護者（父親）の有志の方々による修繕・修理の応急処置をして用いてきました。二〇〇六年二月の理事会にてⅡ期・Ⅲ期工事の再開が決定されました。中高部では、野尻改築検討委員会を立ち上げ、開寮作業に参加してこられた保護者であり、専門家であられる古平真氏に



1970（昭和45）年に野尻にキャンプサイトが完成した時の寄せ書き

アドヴァイザーとして加わっていただき、検討を重ねてきました。設計監理と施工は長くキャンプサイトの管理をされた山川國益氏の後を引継いで管理を担当してました。

Ⅱ期工事とし二〇〇七年七月に英和ハウス・寺ヶ崎ハウスと浴室棟が竣工されました。

Ⅲ期工事として今年七月に長野彌記念ホールが竣工され、礼拝堂的意匠に工夫を凝らした、落ち着いたあるホールに生まれ変わりました。それをもって改築工事が終了しました。ホールの二階に小さなラウンジを作り、キャンプサイトを利用される卒業生の皆様、学生時代を懐かしみ、英和の歴史を辿れるような資料と、同窓の仲間たちの著書などを蔵書とする文庫を開設する予定となっています。

中2夏期学校

中学部教頭 北崎 勝彦

東洋英和の教育特色の一つとして、必ずといってあげられるものの中に、野外教育があります。毎年度、野尻キャンプサイトにおいて行われますが、そこでのプログラムは非常に充実していて、キャンパー達は遅く見えます。その野尻湖畔で行われる夏期行事の皮切りとなる行事が中2夏期学校です。

東洋英和の中学部に入學した生徒は、夏期学校で初めて野尻での野外教育を体験します。自然に親しむプログラム、集団で協力して物事を成し遂げるプログラム、チャレンジによる能力の成長を確認するプログラムが組みま

ています。自然に親しむプログラムは、目前にいったいに広がる自然の中で生活し、見て触れて感じることを全てですが、目を閉じて聞こえる音に集中し、神の偉大な創造を感じるといったメデイーションも行われます。夜には美しい星空を見上げて星座をたどる星空観察も行われます。生徒は、時とともに変化する野尻湖の美しい風景や初めて見るもの触るものに感嘆の声を上げています。集団で協力するプログラムには、キャンピング対抗オリピックや野外炊飯、カッターがあります。キャンピング対抗オリピックとは、ミニ運動会です。キャンピングごとの結束が試されます。野外炊飯では、竈作り、火起こし、調理と役割分担し、協力して食事をつくりま

す。自然の中で頂く豚汁とローストビーフは非常に美味しいものです。カットーは気持ちをついにしなければ、思うように船を進めることができませ

ん。夜にはみんなでキャンプファイヤーを楽しみます。消えゆく火を囲みながら「今日のわざ」を歌い、一日を静かに振り返ります。チャレンジプログラムでは、水泳を行います。泳力別に白、青、黄、赤に色分けを行い、それぞれの能力に応じて泳ぎます。水泳の最終日では、まとめとして遠泳を行います。背の立たない湖で、今まで自分が泳いだことのない時間と距離を泳ぎます。白は五〇分、青は四〇分。泳ぎ切った時には、改めて自分の潜在能力を認識します。泳力に自信の無い黄色の生徒でもプールからキャンプサイトまで泳ぎ、自信をつ

けます。全く泳げなかった生徒も、最後は背の立たない場所で泳ぎ切り、拍手で迎えられます。

中2夏期学校は、その後続く野尻キャンプへと繋がっています。野尻湖での野外教育は、教育を施す側と学ぶ側が共に充実感、達成感を味わえるものです。これは東洋英和ならではの教育のあり方とあって良いと思います。喜びのある教育、生きる喜びを感じられる教育。それは今、私たちに特に求められる教育のあり方ではないでしょうか。今年度ホールが完成し野尻キャンプサイトは全ての施設がリニューアルしました。新たな野尻の歴史が始まります。

野尻キャンプ

高等部教頭 石澤 友康

中2夏期学校に引き続き、中3から高三までの有志約八〇名が五泊六日を野尻キャンプサイトで過ごします。東洋英和中高部内での屈指の名物行事「野尻キャンプ」です。「野尻っ子」と呼ばれるキャンプ好きの英和生は毎年この行事を心待ちにしています。

各キャンピング学年縦割りで構成されたメンバーでの生活は、最初はお互い緊張しますが、次第に先輩後輩の垣根を越えた人間関係が生まれてきます。さらにリーダーとしてOGの大学生が一〇数名参加してくれれます。やはり中高時代野尻キャンプを経験し、後輩のため野尻のために忙しい大学生活の合間をぬって駆けつけてくれます。キャンプの中心的存在です。このようなOGも含めた人と人とのつながりは彼女達のその後の人生において大いなる財産となっています。

キャンプでの中心的なプログラムは水泳・ボート・ヨット・カヤックなどダイナミックな野外活動です。また、夜にはキャンプファイヤーやスタンプ(寸劇大会)などお楽しみプログラムも豊富です。毎日が歌に囲まれ、キャンプソングと共に



キャピンの仲間とお出かけの日です。キャピンの結束もぐっと強まる時です



カヤックでは1人で漕いで湖をスイスイ泳いでいきます



キャンプ生活は自分達の手で作ります。食後の皿洗いも自分達で

●参加生徒の感想より●

- ・初めてだったけど、本気で楽しめた。来年も絶対参加します。学年を超えた交流ができてとてもたのしかった。(中3)
- ・水泳に自信がなかったけど、この5泊6日間で、泳げるようになり、良かった。不安だったけど、みんなに励まされ、自分を信じられるようになった。(高一)
- ・できればリーダーになりたいので、水泳は不得意だが、訓練キャンプに行こうと思う。(高二)
- ・4年間キャンプに参加して、人間として大切なこと、知らなければならぬことを学びました。このキャンプに参加できて幸せ!(高三)

に時間が流れていきます。その中で友情を育み、自分の成長を感じながら仲間と共に過ごす六日間は、まさに青春真っ只中という感じでは。キャンプは動的なプログラムが多い中、学校生活と同様に礼拝の時間がきっちり持たれます。礼拝はチャプレンとして外部より牧師先生をお招きしてお話を伺います。大自然の中でこそ自分を見つめ神を想うことができると時となります。一九三五年から実施され連続と続けられた野尻でのキャンプは、現代においてもその魂を受け継ぎ敬神奉仕の精神に富んだ「野尻っ子」を育て続けています。



オープニングキャンプでプール設置や清掃などしてくださいのお父様方。作業の合間にはヨットやボートなどを楽しむひと時もあります



中3以上のキャンプでは、色々な学年のお友達と一緒にビッグカヌーや様々なプログラムを体験します

爽やかな野尻の朝、湖畔のファイヤープレイスでは礼拝が静かに守られます

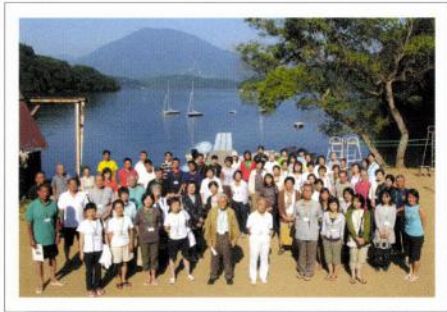


中2夏期学校では水泳の最終日に遠泳を行います。泳げる生徒もよく泳げない生徒もそれぞれの力を出し切ります

改築工事の設計監理と施工をご担当いただいた宮嶋商事の宮嶋裕文社長。「この土をなめた人間でなければここでの建築はむずかしい」とおっしゃっていました。その言葉通り、素晴らしい建物ことができました



野尻支援の会の方々。野尻基金への献金の呼びかけ、楓祭でのグッズ販売など様々な活動を通じて野尻を支えてきてくださいました



野尻改築を記念して、現・旧教職員、理事・評議員など学院関係者が一同に会し、感謝のキャンプを行いました

深い底で横長に切取られた野尻湖は、思いもよらぬ表情を見せてくれるでしょう。底の先は大階段とテラスで湖畔に繋がっています。のんびり腰掛けて湖面や黒姫山を眺めてみてはいかがでしょうか。



左より 宮嶋商事専務と社長、鈴木中部部長、古平真氏

外壁には松板を横貼りし、屋根は堂々とした切妻屋根で、神聖な大空間を予感させます。内部空間にも木をふんだんに使用し、温もりを感じさせると共に、包み込まれるような一体感のある空間となっています。集成材を曲げて、柱と梁が一体となった構造体を見せることで、空間に秩序と緊張感が生まれています。また、2階ラウンジの窓やロフトが大空間に変化をもたらしています。



思い出を繋ぐ建築を目指して

建築アドヴァイザー 高三保護者 古平 真

長野彌記念ホールの設計に当たり、多くの人の思い出を引き継ぎつつ、長く愛される建築にしたいという想いが強くありました。自然環境の影響を考慮して、ほぼ同じ規模で同じ場所に建てました。外観は自然から浮き上がることなく、もとからずとそこに存在していたかのように建っていることを目指しました。

富岡正男先生を偲んで

トミ先生との出会い

英和生として最後の晴れの場で、「信仰」「希望」「愛」を歌いあげる感動。楓祭でオペレッタに出演する楽しみ、鑑賞する楽しみをはじめとして、トミ先生が英和生に与えて下さったものは本当に大きかった。宗教音楽への熱意と共に先生御自身の終始一貫した真摯な信仰の姿も思い出される。最後まで作曲、編曲にいらして居られたことも。そのトミ先生の若い日のひと駒を、知る方も少なくなっただけで、敢て書いてみた。



1953（昭和28）年のキャンプでの富岡先生。渾身の熱中指導

富岡正男先生

1909年生まれ。1952年に東洋英和女学院中高部音楽科教諭として就任。「メサイア」、「信仰」「希望」「愛」をはじめとする数多くの宗教合唱曲を女声合唱に編曲、野尻で歌われるキャンプソング「美しい湖水よ」「今日のわざ」などいわゆる「トミソング」を作詞作曲、指導されるなど、英和の音楽教育に多大なご貢献があった。「東洋英和の歌」も富岡先生の作曲。2008年4月23日永眠。

それは昭和一五年、西暦一九四〇年の夏のこと。私は東女を卒業するに当り、英和の別科（帰国子女の為のコース）の講師に雇っていただいた。別科は小学校に所属していたからその夏の小学科キャンプで野尻湖畔宮沢にあった英和の施設に随行を命じられて行ったところが、着いた途端にさながら食中毒の様な症状を呈し、リヤカーでYMCAのキャンプサイトに運ばれて、額田先生、所謂ヌカボンの治療にあずかる光栄に浴し、且つボーイズキャンプのリーダー三人に看護していただく羽目になった。これが私と野尻との出会いであったのだが、このリーダー達が「トミさんが新婚の奥さんを連れて来る」と頻りに噂している。なんだかともユニークな人らしいので「どんな人？」ときくと「とても面白い人で女言葉を使うんだ、…だわよという風に…」との答え。当時はテレビも

元中高部国語科教諭 岡本 幸江

民放も無くNHKのアナウンサーの端正な言葉がラジオから流れてくるだけで、オネエ言葉の人達など見たこともなかったから、「あら、いやだ」と気味悪そうな顔を見ると、「いや、それがちつとも嫌らしくないんだよ、愉快なんだ」と弁明する。そしてやがてトミ先生は洋装の奥様と共に到着し、何故か私の記憶の中に湿地の様な原っぱを歩いて来られる絵が出来ている。だがしかし、私はトミ先生にご挨拶したような気がしない。会話をすることもなかった様に思う。リーダー達が「なんだトミさん、奥さんのいなりだな」とブツブツ言っていたのは聞いたし、そのような現場を遠望したとは思っけけれども。

トミ先生のトミソングの指導を目的のあたりにしたのは一、二年後、女学校のキャンプ（宮沢）について行った時かと思うが確かでない。トミ先生はYMCAから出張して来られて、今は誰でもお馴染みのあの形で口を動かしてタクトを振って居られたが、生徒達があんまり下手に歌ったものだから（先生から見れば、の話）振りながらヘナヘナヘナ…と坐り込んでしまわれた。生徒達は大笑いして喜んで、あとで、こちらの先生から苦言を呈されたやに洩れ聞いた。ふざけ過ぎ、ということなのだろう。吉本先生も丸山先生も、その他当時の先生方がお揃いでいらっしやっただけから。

さて、その後二〇年も経ってからは、私は同じ学年担当としてトミ先生と机を並

べたこともある。一組原先生、二組私、三組トミ先生だった。私は結婚退職子育て七年間、復職後講師八年間、に続く担任で無我夢中だったから、トミ先生がどんなふう担任をして居られたか全くわからない。当時の生徒にきいてみたい気もする。昭和三七年度の卒業生である。



昨年の「阿川佐和子と野尻を語る会」での富岡正男先生。左はピアノ科の主任をされているご息女の丸山もと子先生

「英和キャンプのあるところは」富岡先生自筆楽譜

## 「宗教」の再発見・再評価を

人間の宗教的生の創造力

これまで私は、宗教学の研究を通じて、聖なるものを体験して生きる人間の宗教的生の創造性に一貫して強い関心を抱いてきました。二一世紀の現代世界は、環境破壊やエネルギーの枯渇、人口移動、食糧危機、経済格差、核拡散や戦争など、一九〜二〇世紀を通じて飛躍的な発展を遂げた科学技術文明や資本主義の加速的展開によってもたらされた人類未経験の大きな破綻を、人々に「生きて」克服することを促しています。そこでは、「宗教」という人類最大の叡知の再発見・再評価がますます重要な課題となっており、今こそが、人間的生の創造力のためされる時なのかもしれません。

日本人の瘦せた宗教観

同時に、「宗教」という名で呼

ばれてきた人類の重要なその営みが、今日ほど日本人の無関心と無理解や偏見にさらされている時代はありません。現代日本人の多くは、「無宗教」を平然と標榜し、「宗教」といえば、特異な人々がとりつかれる異常な心理状態や宣伝活動のことと受けとめ、健全な市民生活を過ごすには、あまり関わらない方が無難だ、とさえ思うようです。

実際、私は毎年、大学での「宗教学」の初回の授業で、学生に「宗教と私」というテーマでエッセイを書いてもらうのですが、七〇〜八〇%の学生がいつせいに「私は無宗教です」と書いてきます。さらにその内の半分以上が「宗教は怖い」といったコメントまでを記してきます。こうした現代日本人の宗教観は、世界的な見地からすると、きわめて特殊だと言わざるをえません。こうした瘦せた宗教観では、世界に様々な



一九七七年高等部卒業  
一九七九年短期大学英文科卒業 笹尾 典代  
ささおみちよ

恵泉女学園大学人文学部教授。専攻は宗教学。アメリカ、ボストン大学教養学部、同大学院宗教学・神学研究修士過程修了、筑波大学院博士過程哲学・思想研究科単位取得修了、筑波大学文学博士（二〇〇一年）。論文・著書に「暦と時間の宗教学的研究ーメソアメリカにおける「暦」の宇宙論的構造と存在論ー」（博士論文）、「マヤの十字架 聖なるイメージのダイナミズム」（『世界の民衆宗教』ミネルヴァ書房）等。

宗教があることを知りながらも、それをたんに社会現象や心理現象として捉えたり、文化の問題としてみなしてしまい、古今東西、人間という存在のあり方、生き方の根底にあってそれを支えるもの、生きた現実であるということを理解しない、その結果、世界の様々な宗教を現実には生きている人々をも理解できないのです。現代人における「人間」や「世界」への理解がきわめて浅薄になってきているということ、そして今日の日本人が自身の宗教的生の創造的エネルギーを喪失してきているという事実に気づかされます。

「敬神」「奉仕」の二文字が：

様々な深刻な危機的問題を抱えた現代世界の人類が、それらを克服するために今求められることは、深く広い宗教的な「人間理解」なのではないでしょうか。私は、

宗教とは、大いなるもの、聖なるもの前で人間が自らの有限的な存在様式に気づくことであり、人間存在のもっとも本来的・根源的な営みであると理解しています。この理解は、現在、私の宗教学の研究教育の営みにおける核ともいえるゆるぎない確信となっています。英和在学中に教えられたことが土台となっています。毎日の礼拝が行われた講堂の正面に掲げられていた「敬神」「奉仕」の二文字がはつきりと私の魂に刻まれています。

私の専門は、キリスト教神学や神学ではなく、宗教現象学ですが、世界の現実で「生きられている、生きられてきた宗教」を通して、現代の人々が、古来人類が表現してきた大いなるものへの「敬意」や感性を受けとめ直し、「宗教」そして「人間」を再発見・再評価することを促すことがその使命だと確信しています。



筆者が近年研究している中米グアテマラのマヤ系先住民の間で熱烈な信仰を集める「マシモン」（手前右端）とそのお世話をするコフラディアの人々。彼らは同時に、キリストもマリアも信仰する自称クリスチャンである。（グアテマラ、サンティアゴ・アティトラン村にて。2007年9月）

## 私の生き方―講演 中村メイコ氏―

幼稚園では毎年六月頃に父母の会講演会を開き、子育てや家庭の在り方など様々な方面から講師の方々にお話しただいています。今年は六月七日土曜日に、女優の中村メイコさんを講師にお招きしました。

中村メイコさんは三人のお子さんの母親として東洋英和幼稚園で過ごされ、幼稚園の歌『おともたち』の作詞も手がけて下さいました。今年で七四歳というお年には決して見えない、明るくおちゃめなメイコさんの講演は、出席された一五二名の父母の方々のたくさん笑いと少しの涙があふれる温かい時間となりました。

講演はメイコさんのご両親の子育て、ご自身の子育てからのエピソードが中心でした。幼少期から父親のユニークな教育で育っていたメイコさんは、学校で教わることに父親の教えとのギャップに悩んだそうです。例えば、夕焼けについて父親は「空が恥ずかしがっているからだ」と答えました。学校の先生も父もどちらも嘘を言っているわけではない。そんなメイコさんにお父様は「いいか、メイコ。答えは一つではない。そんなのは息苦しいぞ」



と言われました。嫌いなものはあきらめて好きなものに磨きをかければ良い、個性を大切にする子育てはメイコさんにも受け継がれました。

子育てをしながら女優の仕事も続けたメイコさんは、二人のお母様にも支えられました。「どうしようもない時には SOS を出すように」とあえて厳しくされていたお母様は、玄関先にいつ呼ばれても良いように荷物をまとめたリュックサックをこっそり置かれていたそうです。またお姑さんは結婚当初から、「家のことも私の食事も全てあなたにお任せするわ」とメイコさんのやりやすいように一歩引いて下さったそうです。

最後に、「子どもが幼稚園の頃の楽しさは格別です。夫婦で寄り合って笑いのある家庭を作って下さい」と締めくくられました。その後会場

全員で『おともたち』を歌い、和やかに会を終りました。

後日父母の方々からは、「母・嫁としての立場に共感できた」、「美学があった」、「話の全てが上からではなく平等な立場からの話で良かった」などの感想をいただきました。

## かえでの木工活動より

かえで幼稚園の木工室は、保育が行われている日はあいています。保育者が交替で担当になり、木工室に入ります。三歳児の子どもは、一学期の間は砂場で遊びながら「私もやりたい」という思いを持ち、隣の木工室を覗きこんでいます。子どもは一人ですっかりと立って、じつと見つめ、自分がやる時を待っています。

「待つこと」「見ていること」「がまんすること」ができるのは、安心の土台があるからと考えられます。まねをしながら、あるいは教えてもらうことから「木」と出会う姿を四歳児の中に多く見ます。動き出した子どもは、試行錯誤し、何度もやり直しをしながら、自分の思いを実現していきます。五歳児の木工室での関わりに「隣人愛」の姿が多く感じられます。「さりげない助け合いや励ましあい」「友だちの達成感を自分のことのように喜ぶ姿」「カナヅチで指を打った時や、作ったものがなくなった時等、友だちの痛みを心配する姿」「見ているもいいよ、まねしてもいいよ」と自分の持っているものを惜しみなく与える姿があります。

このような姿は東洋英和の二つ目の建学の精神『奉仕』につながるものです。「隣人を自分のように愛しなさい」(マルコによる福音書二二章三二節)に根ざしていると考えています。聖書の言葉が、子ども木工活動の中に生きていることを二

〇〇八年六月二日に日本キリスト教青年学会で発表しました。参加した方から、礼拝や祈ることはもちろん大切であるが、日常生活「遊び」と聖書の言葉が結びついているところに意義があると励ましの言葉を頂きました。

このたび、かえで幼稚園であたりまえのように続けてきた木工活動を東洋英和女学院大学の研究助成を受け大学の石津珠子先生と森眞理先生と共同で実践と理論の関係を探りブックレットの作成にいたしました。このブックレット「木工への誘い」が、これから木工活動を始めた保育者と学生のための手引書となることを願っています。また木工する子どもの中に育つものなどを組み入れました。楽しく意義ある木工活動がより多くの子どもたちの中に拡がることを願っています。



(木工室は英和探訪③でも紹介しています)

## 小学部教頭就任にあたって



小学部教頭

村松 時子

教頭というお仕事をさせていただくことが決まった時、英和で一緒にさせていただいた教頭先生方のお顔が次々と浮かび、その任の重さに身の震えを感じました。また、それと同時に英和以外で出会った私にとっての教頭のモデルとなる、三人の先生のことも思い出しました。

私自身が公立小学校四年生であった時の教頭先生。三学期、それまで素敵な女性の担任の先生と男女三六人が楽しくすごしていたのですが、その先生が産休に入られ、事態は一変。全く勉強を教えてくださいえない中年の男性講師によって、瞬く間に学級崩壊。男子が生意気だと思った女子の座布団に放尿したり、先生と言いつつ腹いせに拳をガラスに突っ込み、血だらけになったり、様々な事件が起こりました。そして、各教科を何人も先生で分業し、授業をすることに。この間どんな出来事の時にも落ち着いて幼心にもその場で最善と思える措置をしてくださった教頭先生も、国語を受け持ってくださいました。臨時の保護者会を何度も開き、学校が大変な時だったのに、平常と同じ温かい眼差しで見てくださいさつ

た先生のことが忘れられません。

娘たちも同じ公立小学校に通いました。娘たちも二人の印象的な教頭先生に出会いました。お一人は、直接お話をしたことはないけれど、お見掛けした時はいつもリヤカーを引いていらした、という印象がある方です。娘の友だちのお母さまは、ずっとその方が教頭先生だと気がつかなかった、と笑っていました。子どもたちの為に自汗を流すお姿が印象的でした。

もうお一人は、私のように（？）若くて、（ここは私に似ていませんが）スタイルがよくて、少し茶色に染めた流行の髪型をしていらした女性の教頭先生。初めてお目にかかった時には、えっ、この方が教頭先生ですか、と内心驚いたのですが、用があって一度お話をした後は、子どもたち一人一人をよくわかっていらつしやるすばらしい先生だと、尊敬するようになりました。教頭先生だって、見かけではどんな人かはわからないのです。英和小学部の代々の教頭をなさった方々は、神様からいただいた賜物を活かしてその任を全うされました。今、歩みだして数ヶ月がたった私に神様は何を希望なのでしょう。担任として小学部で過ごしてきた中で出会った方々、経験できたこと、二人の娘の子育て経験で得ているものなどを活かして、毎日祈りつつ、力を尽くして子どもたちのために働かせていただけたら、と思っています。

## 思いがけない出会い ～四年生追分の生活でのこと～

小学部の四年生は、六月に軽井沢にある追分寮に二泊三日の行程で向かいます。

その二日目のことです。予報に反して当日の朝は生憎の雨となり、碓氷峠に遠足に行く予定でしたが、急遽マウンテン牧場に行き先を変更することになりました。

マウンテン牧場の近くにジュティーン先生が住んでいらつしやることは聞いておりました。ただ、こんなに突然ご連絡差し上げて、果たしていらしてくださるものか、先生のご都合を心配しておりました。でも、先生はその日の予定を先送りしてまで、子ども達に会いにマウンテン牧場まで来てくださったのです。

ジュティーン先生は暖かく優しい笑顔で終始子ども達を見守ってくださいっていました。子ども達もジュティーン先生の優しい眼差しを背中を感じながら、安心してつつきヤンドル作りの体験に熱中していました。

その後、アイスクリーム作りの体験を楽しんでいた時のことです。一人の子どもがつぶやくように言いました。

「このアイスクリーム、できたらとっても美味しいだろうな。でも、ジュティーン先生の分はあるのかな。」

そこで、子ども達と、ジュティーン先生の分も一緒に作りました。「ジュティーン先生、喜んでくれるかな。美味しいって言ってくれるかな。」



ジュティーン先生プロフィール

先生はミネソタ州の出身で、宣教師として来日後、1953年から東洋英和で奉職され、以後43年間保育者養成のためにご尽力くださいました。先生には小学校の教師としての経歴もあり、どんなに小さな人の良い点や成果も見つけ、喜び、励まされる先生でした。

子ども達を作ったアイスクリームを、ジュティーン先生はとてもおいしそうに食べてくださいました。これには子ども達も大喜び。子ども達とジュティーン先生の笑顔が一つになった瞬間でした。子ども達と一緒に昼食を召し上がった後、先生はずうっと最後まで私達と一緒に過ごしてくださいました。ジュティーン先生と子ども達とで最後に記念写真を撮りましたが、先生と子ども達の互いの暖かい表情が強く印象に残っています。

その日の子ども達の日記には、ジュティーン先生とお会いできたことの喜びがたくさん綴ってありました。ジュティーン先生の今も昔も変わらぬ英和の子ども達を思う気持ちが子ども達に伝わりました。子ども達も、ジュティーン先生との出会いを通して、改めて「出会う」ことの素晴らしさを学ぶことができましたことでしょう。

## 大学役職者紹介



国際社会学部長 池田 明史

大学の国際社会学部長に選出されて連続二期四年目になりますが、その直前まで国際社会学科主任と入試広報委員長とを兼務しておりましたので、あわせて六年ほど大学行政に携わってまいりました。

「冬の時代」を迎えたわが国の大学の置かれた教育・研究環境の厳しさを、ひしひしと実感する歳月だったように思います。「ミッション系私学の女子大」という本学の特徴を、急速に変化し変貌する現代の社会にどのようにアピールしていくべきかについて、なお暗中模索の毎日です。

もともと社会科学部として出発した国際社会学部は、主として社会科学の手法を用いて、国際社会を分析の対象とする学部という構想の上に成り立っています。その場合の国際社会とは、ボーダーレス化する世界のこともあり、また国際化する国内社会のこともあります。いわゆるグローバル化が引き起こすさまざまな課題や軋轢に直面して、ともかくも「何が問題なのか」を見通し、「敬神奉仕」という建学の精神を發揮してその解決を

志するような人材が一人でも多く育つてくれればと願っています。

私自身の研究者としての出自は、国際政治学の実証研究で、概ね中東地域の紛争問題をテーマにしています。本学着任以前はアジア経済研究所という政府系のシンクタンクに所属し、イラン革命からイラン・イラク戦争、レバノン戦争、湾岸危機・戦争、インティファダ（パレスチナ騒乱）など、中東で次から次に生起する紛争の動向分析に従事しておりました。華やかな女子大のイメージには、必ずしもそぐわない来歴かもしれません。

現在は、イスラエルとパレスチナとの間のいわゆる中東和平プロセスの展開を追っています。国際協力機構（ICA）や外務省などからの依頼で、中東に対する経済協力・技術協力の実務にも関与してきました。来年三月に学部長任期が満了すれば、研究や国際協力実務の第一線に復帰し、存分に動き回ることができると今から楽しみにしています。

一一年間の学生生活（うち大学院七年）

と二年間の研究室助手を終え、本学へ赴任したのは、平成二（一九九〇）年四月のことでした。当時四年制大学は開学二年目、学年定員二〇〇名の小さな女子大学でありました。しかし、朝倉孝吉学長のもと、霜山徳爾先生をはじめとする錚々たる教授陣を揃え、女子大では日本初の社会科学系学科を持つ、従来にない新しい女子大としての活気に溢れておりました。なお、本学に赴任できたのは研究室の先輩である岡本浩一教授によるところが大きくあり、先生とともに、心理学系の演習のほか社会心理学と心理学調査実習を担当し、また、入試委員として大学広報と学生募集の最前線を経験することができました。以来、今日に至るまで一八年間、職住近接、毎日徒歩で大学に通うという生活を続けております。このたび、思いがけず人間科学部長に選出され、なれぬ職務に緊張し、その重責に戸惑う毎日を過ごしております。

さて、現在の日本の大学を取り巻く社会状況は厳しさを増しております。大学



人間科学部長 高木 栄作

全人の時代にあつて、小規模女子大学である本学は、二〇年間築き上げてきた名門女子大の地位を維持できるか否かの瀬戸際に立たされているといっても過言ではありません。いかなる組織も時代や社会状況に即して発展・変容を遂げなければ生き残っていくことはできません。しかしながら、時代にただ流されるのではなく、組織自らが目標を定め、積極的に時代に向かって進んでいかねば組織は魂を失ってしまいます。そこで、大学開学以来の長所を見直し、東洋英和女学院の伝統を継承・発展させることができますように、皆様とともに微力ながら努力していく所存であります。もとより、浅学・未熟の身、大学教職員の方々ばかりでなく、学院に関わるすべての方々のご協力をいただきながら、また、三〇年来の恩師である現学長の鮑戸弘先生のもと、少しでも大学を前進させ、開学当初の輝きを取り戻すよう努めてまいりたいと存じます。

学院に関係する皆様方の暖かいご支援を切にお願い申し上げます。



副学長 新富 英雄

ピターピアスの異名を持つ冷笑话ビアスの『悪魔の辞典』に夢中になっていた頃、この作品を模して私家版「悪魔の辞典」を試作し、ほくそ笑み悦に入ったものである。非難を覚悟で二、三挙げてみよう。

「会議—会議とは、すべからく連帯責任にするための神聖なる儀式である。会議は踊る—タレーラン。会議で眠る—タレカシラン」

「学長—長期に亘って学問から遠ざかるも、やめさせられないためか、なりたがる輩が多い」

「教授—出世魚の一種。院生、助手、講師、助教授、名誉教授と名が変わる。ただし、院生の時が最もイキがよく、教授になると味が落ちることが多い。好物に長いものが多く、学部長、学長など「長」のつくもので簡単に釣り上げることがができる」—などと皮肉を楽しんでいた張本人が、どういふわけか柄にもなく学部長を拜命し、学長・同僚のご協力の下、微力を注いだ四年間であった。そしてい

よいよ定年を迎えるこの一年、私なりにいろいろ計画を思い描いていた。しかし学長が、私立大学連盟学長会、神奈川県知事・横浜市長学長懇談会、キリスト教学校教育同盟代表者会議、それに政府関係の仕事など、一人では処しきれないほど超多忙な毎日であるのが現状であり、このような状況下では学部長が学長の代理として学外の諸会合に出席すべきであるが、始まったばかりの「二〇〇七年改革」に続いて「二〇一〇年改革」にも着手しており、それにも重く関わる学部長の膨大な仕事量を少しでも緩和し、学部の業務にも集中できるようにとの配慮から、この度、副学長制度が新設される一人に推挙されてしまった。

振り返るにあれほど「長」に対して冷やかに皮肉を投じていた自分自身が結果的には出世魚の一種になってしまったことが悔やまれてならない。しかし今となってはまな板の鯉、気分を一新して、改革を目指す鮑戸学長の補佐役としての最後のご奉公としたい。



副学長 増田 弘

一九八九年は、中国での天安門事件、ベルリンの壁の崩壊、マルタ島での米ソ冷戦の終焉宣言など、国際社会で激震の続く年であった。また国内に目を転ずれば、昭和天皇が崩御して六四年に及ぶ長い昭和期は閉幕し、代わって「平成」という新時代が幕を開けた。わが東洋英和女学院大学は、この新しい平成元年の春に産声を上げた。以来、平成の歩みとともに大学は二〇年に跨る歳月を刻んできている。

創設の往時を語るべき重鎮の方々はずでに本学を去り、一部の先生は鬼籍に入られた。今や当時を知り得る教職員も二〇数名となった。回顧の念にとらわれるにはやや早いかもしれないが、ルールを敷いて下さった大先生や幹部職員も、私を含む若手の教職員も、相応の役割分担を果たしながら、理想の大学を目指して夢中で汗を流した思いが強いのではなからうか。

第一期生二〇〇名、第二期生二五〇名、第三期生三〇〇名に対して、教職員は五〇名程度であったから、相互の反応が良

く響いて、まさに「手作り大学」との実感があつた。

間もなく六本木に夜間大学院が誕生し、人間科学部と国際社会学部の二学部となり、短大が消えて大学に一本化されるなど変遷と発展を遂げてきたが、教育の根本は、いかなる人材を育てて社会に送り出すかにある。

つねづね、英和生に接して、「モモ」のような印象を抱く者が多い。表面は柔らかいが、芯は硬いと。つまり、良くいえば、都会的な革新のセンスにあふれながらも、心底に良き伝統を守ろうとする堅実かつ上質の保守性がある。おっとり型でスロー・スターター・タイプが目につくものの、いざ助走がつけば次第に勢いが増していく、そのようなタイプが典型的な英和生ではなからうか。それは実社会に向いている。就職率の高さの秘訣も、このような資質にあるのかもしれない。

しかしまだまだ、「英和的なるもの」を磨くべき課題が山積している。私の副学長就任が、その課題解決への一助となれば幸いである。

東洋英和  
幼稚園



歯磨き指導（年長組）

- お別れ会 3月5日(水)  
卒園する年長組のために年少組が中心になっておばけのリレーと手作りマドレーヌを用意しました。
- 第九回保育証書授与式 3月12日(水)
- 入園式 4月15日(火)
- 新入園母子歓迎会 5月1日(木)  
新たに四七組の家庭を迎え、年長組の母によるハンドベル演奏、布の絵本、手作りお菓子を楽しめました。
- 歯磨き指導 5月22日(木)  
日本大学松戸歯学部歯科衛生士の岸玲子先生より、年少組は基本的な歯の磨き方を、年長組は子どもを寝かせての仕上げ磨きの実習を親子で受けました。その後保護者は学年別に講演を聞きました。

大学付属  
かえで  
幼稚園



ワークの日～お父様方との遊具作り～

- 保育修了証書授与式 3月20日(木)
- 入園式 4月11日(金)  
保護者と共に主の守りと導きに感謝し、卒業と入園を覚えての礼拝をしました。
- ワークの日 4月26日(土)  
今年度一回目のワーク。五歳児父子が、思いと力を合わせて、働く喜びを共有しました。
- 4歳児園外保育 4月28日(月)
- 5歳児園外保育 5月8日(木)
- 3歳児ピクニック 5月20日(火)  
どのクラスも、屋外での楽しい交わりの時を過ごしました。
- カンガルークラス（二歳児親子クラス）I期 5月9日(金)より  
一二組の親子が毎金曜五週に渡り、ふれあいや出会いの時間を過ごしました。

小学部



春の遠足 1年生

- 卒業式 3月13日(木)  
六年間の思い出を心に刻み、八〇名の卒業生が旅立ちました。
- 春休みの行事  
五、六年生の希望者が参加し、歴史探訪の旅は京都・奈良へ、スキー教室は熊の湯へ出かけました。
- 入学式 4月10日(木)  
花のアーチをくぐって、八〇名のかわいい新入生が入学しました。
- 遠足 5月2日(金)  
低学年：新宿御苑  
中学年：小金井公園  
高学年：府中郷土の森
- ペンテコステ礼拝 5月14日(水)  
山田京二牧師先生をお迎えして、「王の中の宝」と題して説教をしていただきました。

中高部



高二修学旅行 広島原爆ドーム

- 高等部卒業式 3月18日(火)
- 中学部入学式 4月7日(月)  
小学部からの生徒と中学部入試で入った生徒が共に新しい学校生活を始めることになりました。
- 高三修養会 5月7日(水)～9日(金)  
伊豆天城山荘にて八木浩史牧師(奥沢教会)から講話をいただき、ディスカッションをしました。
- 中一オリエンテーション前・後期 5月12日(月)～16日(金)  
追分寮にて、聖書について学び、グループごとに「善きサマリア人」の劇の発表をしました。
- 高二修学旅行 5月12日(月)～16日(金)  
全行程天候に恵まれました。広島では原爆ドーム・平和記念資料館を見学、長崎では被爆者の方からお話を伺うことにより、平和について深く考えました。

大学  
大学院



入学式

- 卒業礼拝 3月14日(金)
- 卒業式 3月19日(水)  
全卒業生数は、五八九名。
- 入学式 4月2日(水)  
全入学者数は、五九五名。
- 一年生オリエンテーション合宿 5月28日(水)～30日(金)  
千葉県の大房岬にあるホテルで学部ごとに一泊二日し、グループにわかれ討論、自由時間は周辺の散策、スポーツなど。事前には、参加に消極的な学生も少なくなかったのですが、「行ってよかった」という感想が多く見られました。
- 学位授与式 3月22日(土)  
全修了者数二八名。
- 入学式 4月2日(水)  
全入学者数四一名

主がお入り用なのです。

ルカによる福音書 一九章三一節



「エルサレム入城」 渡辺禎雄 作  
佐藤個人蔵

十字架にかかるという神の計画を実現するためのエルサレム入城に際し、イエスが自ら乗るロバを弟子たちに借りに行かせた時の言葉である。立派な体格で見栄えのする軍馬ではなく、使役用のロバ、しかもまだだれも乗ったことのない子ロバを借りてこさせ、イエスはそれにお乗りになった。この世の価値基準から言えば、無力で弱くて人の役に立ちそうもない存在を、神はご自分の用を果たすためにお用いになるお方であることを教えられる言葉である。自己嫌悪に陥り、生きる勇氣と希望を失いそうになる私たちであるが、神はこの世のとは異なる見方で私たちを見ていてくださり、神の方法で用いてくださる。ここに私たちの存在価値がある。キリスト教学校はこの世の価値基準や評価基準で生徒を判断するのではなく、神から入り用とされている尊い存在として一人ひとりを受け入れなければならぬと思わせられる聖句である。

高等部部长 佐藤順子

子ども達が木と対話する空間、「木工室」を訪ねました

かえで幼稚園の園庭の一番奥に、秘密基地のような小屋があります。そこが木工室です。たくさんさんの工具が並ぶ中で、ギコギコ、トンテンカンと音が響き、子ども達が汗をかいてノコギリを挽き、カナヅチで釘を打ち込んでいます。

木工室は故飯田泰造先生(元短大教授)の指導のもと開かれました。スウェーデンに留学した先生はそこで現地の木工に触れ「出来上がった作品よりもその過程を大切にしろ」という方針で、木工の指導にあたりました。以来三五年間、かえで幼稚園の木工室での活動が続けられてきました。

木工室を訪問中に、せっかく切り出した板が「なくなりました」と言って泣き出した男の子がいました。「あんなに頑張った切った木がなくなるなんて」という彼の悔しさがまわりの子ども達にも伝わり、一瞬緊迫した空気が広がりました。



かえで幼稚園の木工室

しかし程なくして足元に落ちていた木片を友達が発見してくれて一件落着。一生懸命作ったものが自分にも他人にも大切なのであると、子ども達みんなが認識していることがわかりました。



先生とじっくり向き合う時間です



緑と光があふれる中で気持ちよく作業できます



早速出来上がった船の進水式です



力強くノコギリを挽きます



とても厚い板を切るのに挑戦



## センテナリー教会・献堂一四〇周年記念礼拝に出席して

副院長 吾妻 國年



学院創設者ミス・カートメルの母教会であるカナダのセンテナリー教会より献堂一四〇周年記念礼拝（五月二一日）のご案内を頂き、それに応えて、池田守男理事長・院長のメッセージをお預かりし、五月九日（金）～一五日（木）の日程でカナダへの旅に出かけた。その際、中高部語学研修の検討課題と準備の必要から松田昭彦先生（中高部の元英語科主任、現大学非常勤講師）の同行・協力をお願いした。

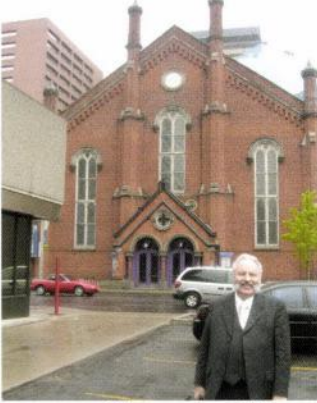
当日アーウィン牧師ご夫妻と教会員の方々の温かい歓迎のもと記念礼拝に臨む。アーウィン牧師の“Fire of God”と題した説教の後、ハミルトン市長とオントリオ州議会代表からの祝辞の次に池田理事長・院長メッセージ朗読の機会が与えられた。献堂一四〇周年への祝辞、ミス・カートメル派遣と学院創設・形成への感謝、東洋英和の母なる教会との信仰における絆をしっかりと保持して行きたいと述べる

と会衆から心のこもった熱い拍手が起こった。また東洋英和から一〇〇〇ドルの記念献金を受けたとの報告に再び長い拍手を頂く。その後ミス・カートメル記念室を見学し、さらにミス・カートメルが眠る墓地を訪れ、まだ新しい墓石の前に祈りを捧げた。

教会の祭壇を目の当たりにしながら、神の呼びかけを受けてから決意までに祈られた姿を回想し、ここ墓碑では、重い労苦と任務を解かれて眠る一女性宣教師の存在を繰り返し思い起こした。長い間知られることのなかったその在り処を確定された有賀誠一先生（前センテナリー教会協力牧師）も山梨英和大学の留学生と共に礼拝・墓参に参加されていた。午後私共二人はアーウィン牧師の案内でミス・カートメル晩年の住居に案内されて深い感動を覚える。

別の日には、プリンス・エドワード島を訪れ、今年誕生一〇〇周年を迎える『赤毛のアン』ゆかりの建物などを見学した。さらに東洋英和の校長であったミス・ハミルトンの母校、マウントアリソン大学を訪問。松田先生を中心にスタッフ達と語学研修の内容や方法についての有意義な協議を行う。貴重なハミルトン関係資料も頂き、先生が学生時代をすごした最も古い校舎も見学し、英和とカナダの歴史を辿る意義深い旅となりました。

（詳細は学院ホームページに掲載）



センテナリー教会とアーウィン牧師



今も残るミス・ハミルトンが学んだ校舎



ミス・カートメル晩年の家の前で

## マツサージュールームを開設しました

障害のある人への能力発揮支援を行うことで全員参加型の職場に！

今年度から六本木キャンパス本部・大学院棟にマツサージュールームが開設しました。ヘルスキーパー（企業内理療師）として埼玉県立盲学校を卒業し、あん摩・マッサージ・指圧師・はり師・きゅう師の国家資格を持つ目黒千恵さんが就任しました。

ヘルスキーパー制度の導入は、本学院は法定雇用率で障害者の方を三名雇用していなければならぬところ、一九年度には障害者の方の在籍がなくなったことで、障害者雇用促進法を結果的に守っていないとみなされたことが契機でした。ヘルスキーパー制度は平成一八年度時点で一二社、二学校法人で障害者雇用のためだけでなく、社員の健康促進、さらに障害者と健常者がお互い支え合う共生の実現を目的に広く導入されています。

昨年企業のマツサージュールームを見学し、ヘルスキーパーの方々に、一般のマツサージ師として働くことと、どう違うのか聞いてみました。「組織の一員として、皆さんの健康管理に役立っているという、施術院を経営していた時とは違う生きがいがある」「その人の働き方や職



ヘルスキーパーの目黒千恵さん

## 「東洋英和楓の会」発足について

### 「東洋英和楓の会」の誕生

一、二四年の永きにわたる東洋英和の歴史は、実に多くの方々英和教育への温かいご理解とお力添えにより支えられてきました。特に、同窓会や後援会をはじめとする学院に關係する諸団体や、ゆかりのある個人の方及び法人などからの、物心両面にわたるご支援があったからこそ、現在の東洋英和があるといえます。

池田守男理事長・院長が「東洋英和楓の会（以下、「楓の会）」の設立を思い立ったのは、種々の会合先で東洋英和幼稚園の男子卒業生やお孫さんが東洋英和で学んでいるという方にお会いする機会があり、それらの方々が一緒に東洋英和への特別の思いを語られることに感動し、「皆様と共に学院をさらに発展させたい」という思いを抱いたことが契機となりました。

理事長・院長の要請を受け、また同窓会、後援会の責任者方の積極的なご理解もいただき、今年の二月に第一回の設立準備会を開催しました。以後、五月まで準備会を重ねて、ご出席いただいた同窓会、後援会、中高部母の会の責任者の方々及び学院各部代表者と、「楓の会」をどのような組織にするか、活発な議論を行いました。その結果、「楓の会」は同窓会、後援会などの諸団体や個人を統括する連合組織とすることになりました。従来別々に活動してきた団

体や個人は、今後「楓の会」の会員となり、将来的にはその活動を学院報「楓園」を通して広くお知らせするなど、オール東洋英和としての一体感を共有し、さらなる活動を共に進めていきたいと願っております。



幸いにも、「楓の会」の主旨は各方面より支持され、五月三〇日の学院理事会・評議員会において設立が承認されました。

一方、六月二七日の後援会役員会・総会で、「楓の会」を運営する当面の資金を、後援会が提供して下さることになりました。

ご多忙にもかかわらず設立準備会にご参加下さった方々、「楓の会」の主旨に共鳴され、組織の基礎づくりのため心よく協力を申し出て下さった後援会常任役員の皆様には、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

### 「楓の会」がめざすもの

「楓の会」は、会員である各団体、個人に有機的なつながりをもたらし、学院との緊密な連携を可能にします。その象徴とな

るのが、学院報と「楓の会」の会誌を兼ねる新しいかたちでの「楓園」を会員全員に送付することです。同窓会会員は約二万名おり、現役の在校生やその保護者、教職員、その他の会員などを合わせると二万五千余りの発行部数となります。かつてない試みであり、「楓の会」の最も重要な事業の一つと言えるでしょう。

また、これまでの学院卒業生の同窓生には、教育・学術・医療・報道・商業・産業・経済・法曹・政治・芸術・文化・スポーツ・福祉・宗教・奉仕活動等、各自の持ち場にあって活躍される多くの方々がいらっしゃいます。これらの方々と共にこの会に連なり、相互の情報交換や各自の賜物をもって協力し合う土壌を培うことをこの会はめざしております。

「楓の会」の会員は、在学生や卒業生だけではありません。今までは、お嬢様が学院をご卒業されると保護者やご親族は東洋英和と直接の關係が途切れてしまう、東洋英和を応援したいのに、その機会がないのが寂しい限りである、というお声が多数寄せられていました。そうした思いもこれから「楓の会」に入会することで継続されます。

オール東洋英和をめざす「楓の会」の主旨にぜひご賛同いただき、会員として東洋英和を末長く支えて下さいますよう、よろしく願っています。《次号に続く》  
（文責「東洋英和楓の会」企画推進委員会）

### 訃報

心より哀悼の意を表します。

富岡 正男氏 元中高部教諭

二〇〇八年四月二三日

西村 信子氏 大学職員

（キャリア就職課）

二〇〇八年七月一〇日

大野 晋 氏 元大学教授

二〇〇八年七月一四日

### 三英和懇談会が開かれました

今年もカナダ・メソジスト教会婦人伝道会社によって設立された学院が集う、三英和懇談会が開かれました。七月一日（土）今回の会場である山梨英和学院に静岡英和女学院の各部長・役職者とともに、本学院からも池田守男理事長・院長をはじめ一四名が参加いたしました。

懇談では各学院の現状と課題について報告があり、部門別の話し合いでは活発な意見交換がなされました。一年に一度

の貴重な情報交換の場であるこの日を有意義に過ごすことができました。来年は東洋英和女学院で行われる予定です。



# 英和の植物通信

—野尻編—

～目を近づければ楽しさ無限～ No.13

絵・文・写真：中池 敏之

(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



オニグルミ (野尻キャンプサイトにて)

## オニグルミ (鬼胡桃)

英和の野尻キャンプサイトのキャンピング近くに、大きなオニグルミの木があります。雪、雨、風に耐え、落ちた枝の痕はすっかり丸くなり、どっしりと生えています。大きな葉、温かそうな樹皮が印象的です。この木のずっと昔の親は、きっとナウマン象の行き交う姿や旧石器の人々を眺めていたのでしょう。

この木はめでたい木として、枝は小正月の祝木やアイヌの人々が神に捧げる幣、実は森の小動物や人々の大切な食べ物、材はすぐれた家具、樹皮は籠を編んだり子どもの胡沙笛作りとして利用されています。



ムコウイサヤクウ

ようこそ 野尻キャンプサイトへ  
私たちが おお迎えいたします。

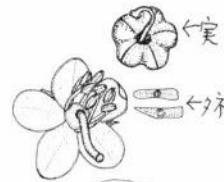


イタチササケ

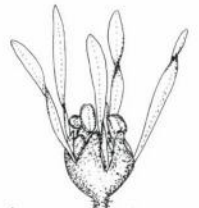
この時期、黄色の花はうっせいに存在、葉は山菜として利用。



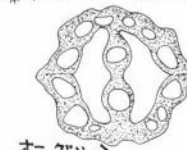
正面から見た花



実



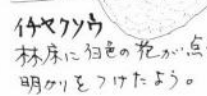
トリアシシヨウマ  
淡紅色のガクの帯と、  
白色の花弁が特徴的。



オニグルミ  
実の中を見ますと、この葉が  
うっせいに存在する。



小羽



イマクソウ  
林床に白色の花が点在、  
明け方モフけたよう。



クシクシダ  
月影は二重、葉柄は  
漆を塗、たりにきれい。



コハクアケエデ  
こまなうちゆな  
夏は涼しい。



ミヤマハハソ  
オシベの形はまさに  
森の妖精。



アケ  
茎からは糸をとります。

## コンサートのご案内

### チャリティーコンサート

「MUSIC and ARTをあなたに」

2008年10月3日(金) 18:30開演

(ミニ・バザールのため17:45開場)

霊南坂教会(港区赤坂1-14-3)

全席自由 大人4,000円 中高生2,000円

(小学生以下はご遠慮願います)

主催：グリーン・メドレー 後援：東洋英和風の会  
お問い合わせ先

●予約担当 田口まで

Tel & Fax 03-3370-6786 (受付18:00~21:00)

●東洋英和女学院法人事務局 総務課 佐藤まで

Tel 03-3583-3325 (受付平日 8:30~17:00)

同窓生と有志の演奏家の方々が「東洋英和風の会」設立を応援しようと企画して下さったチャリティーコンサートです。音楽とアートの饗宴をお楽しみください。(純益は東洋英和女学院のために捧げられます)

## 東洋英和女学院学院報 楓園 第53号

発行日：2008年9月4日

編集：学院報編集委員会

発行：学校法人 東洋英和女学院

東京都港区六本木5-14-40

TEL 03-3583-3325

メールアドレス

koho@toyoeiwa.ac.jp

ホームページアドレス

http://www.toyoeiwa.ac.jp



二〇〇八年度 同窓会総会  
六月七日(土) 午前中に六つの各会総会を終え、午後は新マーガレット・クレイグ記念講堂で礼拝をもって全体の同窓会総会が開催されました。お説教を下された山北宣久牧師はじめ、オルガン奏者の米山浩子さんや奉唱の「メサイアをうたう会」(共に卒業生たち)が英和を愛し、英和の為に常に祈っていて下さる気持ちが伝わり、出席者も共に「敬神奉仕」に立ち返り母校への思いを一つにすることが出来ました。総会議事は滞りなく進み、池田守男理事長・院長から学院の現状についてお話を伺いました。閉会後は集客室に場所を移し、歓談の楽しいひと時を持ちました。



### 後援会役員

会長 横山 藤 (継続)  
副会長 金子栄一 (継続)  
安藝祐一 (継続)  
田中嘉一 (退任)  
神谷直彌 (継続)  
小林 宏 (継続)  
石川 栄 (新任)  
会計監事 永澤宏一 (継続)

後、懇親会にて教職員と会員の交流がなされました。

二〇〇八年度後援会総会・役員会報告  
六月二七日(金) 一七時より、ANAインターコンチネンタルホテル東京にて、二〇〇八年度後援会総会・役員会が開催されました。会員の出席者数は計三三二名でした。総会に先立ち役員会が行われ、①新役員紹介、②退任される田中嘉一副会長と新任の石川栄副会長の承認と挨拶、③二〇〇七年度決算報告及び二〇〇八年度予算案、④「東洋英和風の会」設立の主旨説明及びそれに伴う後援会規約の改正が審議され、すべて承認されました。総会では池田守男理事長・院長のお話と、各部代表者の先生方より今年度の抱負が発表されました。その後、懇親会にて教職員と会員の交流がなされました。

同窓会より

後援会より